



JFVSS Newsletter

臨床と研究

早いもので今年も残すところあと2ヶ月となりました。こちらも日に日に冬が近づいてきており、庭の花もすっかり元気がなくなってきました。夏好きでウィンタースポーツをしない自分としては冬はテンション上がり気味ですが、ホリデーシーズンが近づいてくるのはやはりワクワクします。今年ももう一息頑張りましょう。

ご存知の方も多いと思いますが、アメリカの獣医では臨床と研究が結構しっかり分かれていて、臨床に進みたい学生は研究に触れる機会はずがありません。なので、PCRとかフローサイトメトリーといった検査は日々の診療でも使いますが、学生に限らず獣医師もその基本的な原理をあまり理解していなくてビックリすることが稀にあります。個人的には臨床と研究は別物だという考え方があまり好きではないのですが、だからといって学生全員に卒論を課す日本のスタイルがいいとも思えないので難しい問題ですね。ただ、臨床が好きな人なら、普段の臨床現場で分からないことが多すぎて研究に興味を持たざる得ないんじゃないかなというのが率直な感想です。実際アメリカの専門医の中でも深みがあってすごいな〜って感じる人は研究もバリバリやっている人が多いです。現在は臨床医としてのレベルアップがまず必要なので研究は二の次になってしまっていますが、やりたい研究は日々蓄積されていってます。アジアでの専門医制度設立の話も進んでるみたいですが、欧米以上に厳しい基準を設けて(PhDも課す5年プログラムなど)、臨床も研究もできる人材をどんどん輩出していければアジアの獣医療の地位向上につながるのではと思います。なんて偉そうな事を書きましたが、まだまだ下っ端レジデントなんでまずは専門医になれるよう頑張ります。

佐藤 雅彦

